

都城工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	校外実習
科目基礎情報					
科目番号	0069	科目区分	専門 / 選択		
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	建築学科	対象学年	4		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材					
担当教員	山本 剛				
到達目標					
1.実習先で、求められる実習内容を概ね理解し、実行する。 2.企業・研究機関の現場の知識、技術を体験し、技術者としての倫理観を育成する。 3.企業・研究機関の現場で、専門知識・技術が、と、のように活かされているかを認識する。 4.実習の内容についてまとめた報告書を作成する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	実習先で求められる実習内容を理解し、実行できた。	実習先で、求められる実習内容を概ね理解し、実行できた。	実習先で求められる実習内容を実行できた。		
評価項目2	企業・研究機関の現場の知識技術を体験し、技術者としての倫理観を確立できた。	企業・研究機関の現場の知識、技術を体験し、技術者としての倫理観を育成できた。	企業・研究機関の現場の知識技術を体験できた。		
評価項目3	企業・研究機関の現場で専門知識・技術がどのように生かされているかを体得できた。	企業・研究機関の現場で、専門知識・技術が、と、のように活かされているかを認識できた。	企業研究機関の現場で専門知識・技術を見学した。		
評価項目4	実習の内容について理解し、まとめた報告書を作成できた。	実習の内容についてまとめた報告書を作成できた。	実習の感想を報告書に記載できた。		
学科の到達目標項目との関係					
JABEE (c) JABEE (d) JABEE (f) JABEE (g) JABEE (h)					
教育方法等					
概要	1)建築資材の生産や建築物の組立工程に用いられる現場の知識や技術を実際に体験し、職業観と技術者倫理観の育成を図る。 2)専門知識・技術が、現場で、と、のように活かされているかを認識し、今後の学習の目標と計画策定の参考とする。				
授業の進め方・方法	実習中は実習先のルールを遵守し、安全面に注意を払うこと。 学生らしい真摯で、積極的な態度で、与えられたテーマに取り組むこと。 定められた実習期間を守り、無断欠席・遅刻など、しないこと。 実習後に研修内容をまとめた報告書を担当教員に提出すること。				
注意点	1.実習期間は夏季休業中とする。 2.実習先は原則として企業・研究機関とする。 3.実習期間は10日程度(実質研修日か、最低5日)とする。 4.企業等並びに、にその業務内容の情報収集を行うこと。 5.職業人としての意識の形成を図ること。 6.技術者としての倫理観の育成を図ること。 7.レポート(報告書)作成能力を養うこと。 8.自己表現力の育成を図ること。				
ポートフォリオ					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	校外実習	実習先で、求められる実習内容を概ね理解し、実行する。企業・研究機関の現場の知識、技術を体験し、技術者としての倫理観を理解する。企業・研究機関の現場で、専門知識・技術が、と、のように活かされているかを認識する。	
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	相手の意見を聞き、自分の意見を伝えることで、円滑なコミュニケーションを図ることができる。	3	前1

				相手を理解した上で、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ている。	3	前1
				集団において、集団の意見を聞き、自分の意見も述べ、目的のために合意形成ができる。	3	前1
				目的達成のために、考えられる提案の中からベターなものを選び合意形成の上で実現していくことができ、さらに、合意形成のための支援ができる。	3	前1
態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	態度・志向性	身内の中で、周囲の状況を改善すべく、自身の能力を発揮できる。	3	前1
				集団の中で、自身の能力を発揮して、組織の勢いを向上できる。	3	前1
				チームワークの必要性・ルール・マナーを理解し、自分の感情の抑制、コントロールをし、他者の意見を尊重し、適切なコミュニケーションを持つとともに、当事者意識を持ち協調して共同作業・研究をすすめることができる。	3	前1
				組織やチームの目標や役割を理解し、他者の意見を尊重しながら、適切なコミュニケーションを持つとともに、成果をあげるために役割を超えた行動をとるなど、柔軟性を持った行動をとることができる。	3	前1
				未来の多くの可能性から技術の発展と持続的社会の在り方を理解し、自らのキャリアを考えることができる。	3	前1
				技術の発展と持続的社会の在り方に関する知識を有し、未来社会を考察することができるとともに、技術の創造や自らのキャリアをデザインすることが考慮できる。	3	前1

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	34	34
専門的能力	0	0	0	0	0	33	33
分野横断的能力	0	0	0	0	0	33	33